

リモート学習新時代に向けたアーカイブの制作

大阪芸術大学 音楽学科 教授 志村 哲

<研究目的>

本研究は、いわゆる新型コロナ禍に実施してきたリモート授業における諸問題を検討するとともに、ネットワーク上の授業で必要になると考えられる、歴史的なアナログ記録メディアをデジタル化したアーカイブの作成を目的とする。また申請者が、通信教育部音楽学科の開設準備段階から構想を温めてきた、対面授業では得られない教育効果とその授業形態について、本学が使用するZoomミーティングのシステムを使用した場合の制約と拡張性を評価するとともに、今後の可能性を見据えて新時代の個別的／主体的な学習方法と教材コンテンツの在り方を実践的に考察する。近未来の大学は、学術的知識の専門化／高度化に対応できる体制作りが必要であることは確かだが、一方、生成型AIの実用化による知識の流動性の高まりに対応できる高度な専門性を有する教員を、多種多様な領域から夫々確保することは困難になるであろう。

そこで、西暦2000年の開設当時から報告者の構想にあったリモート授業におけるフィールドワーク先での生中継や、人間の教師と教授アバターの対話形式の演習授業等の実現は、現状を乗り越えられる可能性がある。また、教育産業界ではすでに推進されているオンデマンド教材による事前事後学習と、きめ細かな個別指導のためのAI活用の方法や、若者のインフラストラクチャとなったゲーム習慣などを考慮することが有効である。

今後の大学授業を理論系と創作系に分けてそれぞれの将来像を予測してみれば、両者とも「リアルとヴァーチャルのハイブリッド形式」に移行するであろう。そのためにも、デジタル教材の準備をしなくてはならないと考えられる。ただし、合理化のための安易な「なんでもデジタル化」は芸術系の学習環境にはそぐわない。音楽行動における人間の感性と創造性は、身体器官からの情報によって育まれると報告者は考えるからである。

<研究方法と成果の概要>

音楽文化は、古には同一地域、同一言語の内に育まれ、イメージが共有されてきた。ところが、国際的な人の往来と、通信、記録メディアの発達によって、異文化間の文化触変が起こり、音楽様式は多様に拡散していった。さらに、経済優先の現代日本社会においては「タイプ」がひとつの価値観として、文化理解の側面に大きく影響を与えている。しかし芸術は、創作者の長期の修練と苦悩の先に結実するものであると考えることもできる。また、音楽は理解するものではないという言説もしばしば耳にしてきたが、グローバル社会においてはその考え方が

が大勢の好奇心と知的／感覚的創造性の幅を狭めていると感じられる。その問題への対処方法として、特に伝統音楽／芸能の世界では、文字や音声による解説を公演と同時に進行させる試みのほか、ノンバーバルコミュニケーションが求められる器楽曲においては、流行のアニメ、プロジェクション効果などを重ねるなど、当該作品には本来不要であった情報の付加による表現方法が一定の成果をあげている。報告者は、こんにち叫ばれる伝統邦楽衰退の要因のひとつに、以上のことがソフト、ハードともに適切に対応できていないことを指摘してきた。本研究は、本学の学生、教員の活用を念頭とし、今後の創作／教育関係を担う人々に対して、以下の方法により文化理解のための情報のアーカイブを提供する。

[1] 歴史的かつ膨大なアナログ教材のデータ化

報告者が収蔵する音楽史料のなかには、歴代の教授がフィールドワークで得た、他に類を見ない独自の録音／録画メディアが大量に存在する。これまで、その一部についてデジタル化の作業を実施したが、一研究者が処理できる量ではないので、専門知識と技術の提供を受け、集約する事業計画を立てた。具体的には、これまで分散して保管されてきたアナログ記録メディア(オープンリールテープ、カセットテープ、ビデオテープ等)を整理し、パーソナルコンピュータによる検索が可能なリスト作成と、音源データ化の作業モデルを試作した。さらに、ネットワーク上から授業使用が可能なアーカイブの仕組みを検討した。

また、すでに通信教育部で蓄積してきた音楽のマルチメディア・データベース構築のノウハウがあるので、これらを最大限に活用してネットワークに対応した歴史的アーカイブの構築方法と遠隔授業への効果的活用する方法について検討した。

[2] 本学の地理的・歴史的特徴を生かした作品の制作と伝統音楽の理解・活性化のための実験

創作領域では、産学協同「明珍火箸風鈴プロジェクト」における作品《楽の器 - 実践編》の制作と公演を実施し、同時進行するプロンプト表示の実験を行った。なお、報告者は、第2次AIブームの頃、Cyber尺八プロジェクトにおいて、伝統的奏法の現代化の在り方を提示したが、現在の第3次AIブームにおけるメタバースへの展開の可能性について、学会、企業セミナーに参加し検討した。

[3] 本学が資料を受け継ぐNHK制作を中心とした歴史的電子音楽のデジタル・リマスタリングに係わり、教材のアーカイブ作成のために作曲者、制作担当者に取材し、ドキュメントを作成した。